

学校教育目標

いのち輝く梁瀬っ子の育成
～未来を創る心豊かな人づくり～

総合的な学校関係者評価

○地域と一緒に学んでいくという点でうまくまとまってきたと感じる。地域の人たちと積極的に接していける子どもたちが多くなってきているように感じる。○学校運営方針に基づき活動内容も充実してきている。しかし、コロナ禍が続いたこともあり、保護者や地域への認知度がまだ低いのが課題である。今後は、保護者等の認知や理解を深める対策を講じていけば、よりよい学校運営につながると思う。○良い活動ができていて、情報発信により地域の方により身近に感じていただけたらと思う。○人数制限がなくなり、いろんな行事ができ、子どもの活動が目に見えてきた。地域との体験活動はとても大切だ。保護者や地域にも広げてさらに充実した活動になればと考える。○梁瀬小学校では、児童指導に対して将来を展望した活動が実施されている。教育活動の結果は、「目の前の児童」である。常に目の前の児童をよく見て課題を考え、将来への展望を持って教育活動に当たって欲しい。○オープンスクール等で学校を訪れた際に、子どもたちは元気にあいさつしてくれました。これからも学校のことに関心を持っていきたいと思います。

※文書表現で記入してください。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	○学校の様子や情報は、学校・学年・学級通信やホームページ、学校メール等でできる限り発信をした。ホームページは、QRコード等も通信につけてPRした。今後も引き続き、発信とPR等を行っていく。また、学校メールの活用をもっと検討したい。	・保護者の方からも「ホームページ見えます」との声も聞くようになり、アンケートでも「おおむねあてはまる」以上が95%と周知していただけるようになった。児童アンケートで「渡していない」という子もいて、再度呼びかけていきたい。大きいA3、カラーの要望があり、検討したい。
		学校運営協議会活動の充実	A	○ふるさと教育に関しては、ほぼ計画していたことは実行でき、学校運営協議会として活動も充実してきた。委員のメンバーも検討を重ね、地域性や男女比、若手登用等も実施した。今後は、地域や保護者に活動のPRをどうするか、検討していきたい。	・人数制限等がなくなり、保護者や地域の方への公開の機会が増え、保護者アンケートでも高評価であった。ふるさと教育等の活動を家庭や地域にさらに発信し、周知を行う。 ・活動のみが目的とならないように何を学ぶのかと目標を明確にした取り組みにしたい。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	○年度当初に全学級で学級経営案を作成し、学期ごとに評価と改善を行っている。○学習規律や姿勢や決まり事等全職員で共通理解を図り、年間取り組んだ。しかし、まだ、徹底できていない所もあり、反省し、徹底できなかった部分の対策を講じる。	・児童アンケートでは、おおむね、学級の中では仲良く生活していると回答しているが、相談しやすいかという点では、少し低い数字となる。何か悩み等があったときに、相談しやすい体制や定期的な相談タイム等検討していかねばならないと考えている。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A	○週1回の情報共有する場の設定や定期的な児童へのアンケート等を行うことができ、児童への対応につながっている。今後は継続していき、予防と早期の対応に心がけたい。○年3回の子どもの話を語る会も今年も定期的に行い、対応についての共通理解ができた。	・学校では、とにかく児童の様子をしっかり見る。そして、変化があればすぐに対応する。予防と早期対応を心がけている。できるかぎり見落とさないような対策を今後も考え、工夫していきたいと考えています。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A	○いじめ対応も予防も早期対応も組織的に連携し取り組めた。すべてにおいて、大切なのは、児童の実態把握と子どもが相談しやすい環境と体制作りである。いじめや不登校は、起きる前の対応が大切で、子どもが相談しやすい体制を検討していきたい。	・現時点で長期の不登校児童(30日以上)はいませんが、それぞれに課題や悩みを抱える子はかなりいる。朝会や道徳、また機会あるたびに呼びかけはしている。SCとの連携や子どもの情報共有等密に行っている。相談しやすい体制は、今後の課題でもある。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	○毎年4月に防災におけるマニュアルの点検や見直しは行っている。安全点検も今年も定期的に行えた。警報時等の引き渡しも訓練どおり、実際の時もできた。マニュアルの点検は4月の職員会議で行っているが、教職員への周知徹底をさらに図りたい。	・児童アンケートからも防災や安全への意識が高くなってきていることは分かる。1月の能登半島の地震での被災地への思いから自主的な募金活動も意識の高まりからであると考える。 ・保護者アンケートからも取組に関しての認識はしてもらえている。 ・今後は、危機管理マニュアルの見直しと周知を毎年4月当初に行っているが、教職員への周知徹底する必要がある。 ・地域と共に防災教育を進める活動が今年できたことは大きいと感じている。今後もこのような取組を進めていきたい。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	○夏季研修で地域の方と一緒に防災について研修を行い、児童は地域の防災士の方に地域の防災について教えていただいたことはとても良かった。避難訓練も年3回実施し、事前指導等も行えた。防犯に関する指導が十分でなかった点は反省点である。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	○医療ケア児の対応の研修や支援計画や指導計画の見直しや評価もできた。医療ケア安全委員会も定期的に実施できた。また、定期的な支援委員会やケース会議の実施で、支援体制も全職員で共通理解を図り、整っている。今後は充実に向けて取り組みたい。	・学校運営協議会でもインクルーシブ教育について共有する機会を設け、地域の中で理解を深めていける場面があればと感じます。 ・梁瀬小学校でのすばらしい取組であり、今後も児童の可能性を伸ばしてあげて欲しい。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A	○コロナの5類移行に伴い、制限も緩んできたが、インフルエンザやコロナが流行した時期もあり、換気や手洗い等は引き続き、推奨していった。マスクも少なくともはなっているが、まだとれない子もいる。はやりかけた時の予防対策は徹底していきたい。	・状況に応じてしっかりと判断され、取り組まれていると感じています。 ・今後もこのような感染症が出たときにこの経験は生きてくると思います。ここでのノウハウをしっかりと引き継いでいくことが大切です。 ・安心、安全な学校づくりを願います。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	○ふるさと学習を中心に、ほぼ計画通りに実施できた。子どもたちもとても楽しみにしていて、今後も充実させ、継続していきたい。また、保護者等へも学校だよりやホームページ等で活動内容を発信していきたい。	・地域の中で学ばせていくことは、梁瀬小の特色として、今後も継続してほしい。また、地域を知り、地域を大切に思う子どもを育てて欲しい。 ・地域や保護者の参加型の検討。 ・児童アンケートからもとても楽しみにしていることがわかります。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B	○授業のUD化推進に向けて、4月に全職員で再度共通理解を図り、支援の在り方等の工夫した授業改善に向けて、2学期は、全教員が研究授業を行った。10月には市研究会を実施し、深められた。今後は継続して定着するように進めていきたい。	・UD化で進める授業スタイルの授業の「めあて」「見通し」「振り返り」は児童アンケートでわかりやすく回答していることから、効果があると考えている。 ・朝学習での取組や授業での態度でも児童達は、とても前向きに受けようとしていることもアンケートの結果で分かった。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	A	○朝学習や算数科の複数指導等、また「書く力の向上」をめざして、基礎基本の定着に取り組めた。「書く力」の向上に向けて、授業の中でも書く場面を取り入れて、内容を工夫した。研修で「書く力」の取組を系統的にまとめ、今後に活かしたい。	・授業が分かれると言うことは子どもたちにとって、とてもうれしいことであり、次もがんばろうという意欲にもつながる点からも、今後も子どもたちの分らないと思う課題を見つけ、分かる授業へとつなげていける授業改善に努めていきたい。 ・道徳の授業も児童アンケートで、とても積極的に取り組んでいることがわかった。授業で学んだことが、生活の中で生きてくるように今後も取り組んでいきたい。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	○道徳教育は、授業の時間をしっかりと確保し、全クラスで取り組めた。児童たちの「対話し考える」点については、本年度も引き続き、取り組めた。研修において、指導の工夫や評価等今後充実できる時間を確保していきたい。	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	○研修でもICT活用の研修は行えた。特に児童用デジタル教科書の活用についての検証を進め、効果的な活用の仕方を工夫している。また、タブレット端末を活用する機会を増やしているが、タブレットを毎時間使うことは難しい。	・これからの社会においてICT機器は必要なものです。それだけに正しい使い方となる基本をしっかりと教えて欲しい。また、授業中での急激な変化(活用)は、個人差が生まれます。徐々にモラル的なことも取り入れ、ゆつくりと浸透していける方法が望ましいと考えます。 ・画面だけでなく、先生の顔を見ながらの授業も大切にしたい。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	○担当者が責任を持ち、中心的な役割を果たし人権標語発表会や全校朝会等様々な場面人権についての話をしている。しかし、まだまだ児童の人権に対する意識の高揚は必要と考える。今後は学んだことが生活の中で実践していけるかが大切である。	・人権や命を大切に教育は、とても大切だと思います。 ・できれば、PTAや地域と連携しながら進められる活動があれば、良いと思う。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	○体験活動については、学年のつながり、系統性を見直した計画に沿って、外部人材の活用を図りながら、今年は、ほぼ計画通り実施できた。子どもたちもとても熱心に取り組んだ。体験で得られることは多く、今後も継続していきたい。	・地域の特性を活かした体験活動を実施していただいています。体験活動は様々なことを学び、多くのことを吸収し、すばらしい経験となります。体験活動が充実することで児童達の可能性をさらに伸ばしていきたいと思えます。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	○食育については、栄養教諭が中心となり、各教科でも取り組めた。また、農園体験を全学年で実施し、食についての意識は、定着しつつある。今後は、この活動を家庭や地域にも発信していきたい。	・地域の特産物等をしっかりと教えて欲しいと思います。 ・食に関する知識を知ることは、生きていく上でとても大切だと思います。食育教育を推進し、食について高い意識が持てる子どもに育てて欲しい。 ・保護者を含めた取組も検討願う。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	○キャリア教育は、昨年度計画を見直し、学級活動の教育課程にキャリアの視点(内容③)の位置づけを行い、本年度も取り組んだ。体験活動等でキャリア教育につながることも多く、この実践をしっかり検証し、次年度につなげ定着を図りたい。	・将来への展望を持ち、学びを進めることはとても大切なことです。今後もキャリア教育のさらなる充実に努めてください。
その他	・児童会活動の活性化を図る等 ・総合的な学習の時間の充実を図る	A	○定期的に代表委員会を開催し、主体的な児童会活動につながっている。地震の募金も子どもたちから声が上がって、行えたことはとても意義があった。 ○総合的な学習では、研修で年間指導計画を見直し、内容の充実を図った。	・児童の主体的な活動につながる取組ができるようになってきている。この取組が梁瀬小の伝統になればと思う。	